第４回角田市長期総合計画審議会会議報告書

１．日　時　　令和３年４月２８日（水）午後３時００分から午後５時２０分まで

２．場　所　　角田市役所３０１会議室

３．出席者

（１）角田市長期総合計画審議会委員　２０名（別添委員出席者名簿のとおり）

（２）事務局　１４名（別添事務局出席者名簿のとおり）

（３）角田市第６次長期総合計画策定支援業務委託業者　５名

（七十七リサーチ＆コンサルティング株式会社）

調査研究部　部長　　山下　勝善

調査研究部　担当部長　　佐藤　　渉

調査研究部　上席研究員　木村　暢男

調査研究部　上級研究員　皆川　乾介

調査研究部　上級研究員　片桐　拓也

４．内　容（概要）

１　開会

２　委嘱状の交付

３　会長あいさつ

コロナ禍の大変な時期にご参集いただきまして本当にありがとうございます。

前回までは、理想や角田市の現状を踏まえてどう考えていくのかといった話を、ご意見を頂戴しながら進めて参りました。

本日第４回では、基本構想や基本理念、人口ビジョンといった角田市の現状の型に合わせ、これまで議論してきた理想や希望、夢といった部分をいよいよ落とし込んでいく、その前段までやってきました。ちょうど物を作る際に鋳型に煮えたぎった鉛を溶かし込むような、そういう作業を行って参りたいと思います。その時に一番大事になってくるのは、キーワードになってくると思います。恐らくは、この角田市全体を射抜くような言葉、あるいは私たちが志向していきたい言葉、その言葉の持つ意味というものがこれから皆さんのご意見の中で大きな位置を占めてくることになりますので、ぜひ角田市の成長と発展、そして安全、安心のために忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうか本日もよろしくお願いいたします。

４　市長あいさつ

お忙しい中、ご出席を賜りまして本当にありがとうございます。

本日は、前段で基本構想の構成案や人口の将来展望、まちづくりの基本理念など、第

６次長期総合計画の骨格となる部分のたたき台を事務局よりご説明します。その内容とこれまでの各種調査報告などを踏まえた上で、前回に引き続き１０年後の角田市のあるべき姿、目指すべき都市像についてご意見を頂戴したいと考えております。長期総合計画に掲げる「都市像」は今後１０年間のまちづくりを象徴するとともに、その理念や方向性を市民の皆様にも分かりやすく示すものでなければならないと考えております。

急速な人口減少、少子高齢化、そして厳しい財政状況といった本市の置かれている状況を踏まえつつも、市民の皆様の想いや委員の皆様のご意見を十分に取り入れたものにしなければなりませんので、それぞれの知見を基にした忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

これまで私の意見を申し上げることはあまり無かったと記憶しております。というのも、私が意見を申し上げますと、市長の想いということで、その方向に進んでしまう可能性がありますので、出来れば皆様からいろんなご意見を賜わった中から、方向性を見出していきたいという考えがございます。ただ、市長としての想い、熱意をもっと議論の中に加えないと議論自体が進んでいかないというご意見も賜っておりますので、私の想いに触れさせていただきます。

これまで施政方針演説などでもお示ししておりますが、私が非常に大事だと思っていることの一つが、市政の主役は「市民」であるということでございます。そして、市民の皆様の中には潜在的な能力やポテンシャルを活かして既にご活躍をいただいている方、想いや行動力を持っている方がいると信じておりますし、そういったところを多々見させていただいております。

それはいわゆる「市民力」というものだと思っております。市長の立場としましては、そういう方々、あるいは団体やグループ等で活躍されている方々の表れである「市民力」を更に引き出し、それをまとめて市の活性化に結びつけていくということが大事だと思っております。そして市の職員は一生懸命下支えし、ベクトルを同じにして市の活性化に向かって行く先に、角田市の発展があるのではないのかと思っております。

そういったところを、第６次長期総合計画の基本構想に示しております。まちづくりの基本理念に、「市民が主役のまちづくり」として「本市を支える市民及びその市民の活動は、まちづくりの根幹をなす財産です。まちづくりは、市民の幸せを最大の目的として営まれるものであり、市民がまちづくりの主役となり、「市民力」を発揮できる環境づくりを推進するとともに、行政は市民と共に考え、汗をかき、角田市を高め合える環境づくりを推進します。」という文章があり、この辺りがこれまでの資料、様々なご意見を総合し、私の想いも加えさせていただいた部分だとご理解いただきたいと思っております。

そして、「都市像」をどの段階で紡ぎ出すかということですが、どんな手法で行政運営、行政活動をしていくのかということを、１０年間の中で前期、中期、後期と順序立てて組み立てる中で段々と見えてくるという考え方もあろうかと思います。ですが、私としては、まず「都市像」を皆様と共有して、それに向けて具体的な議論を組み立てていく方が良いのではないかと思っております。ここで「都市像」を直ぐに決めるということでは無く、こういう考えでいきましょうといったご意見を賜れれば、次回以降の審議会でまとめていくスケジュールでございますので、それを旗印にしながら具体的な計画の策定に入っていきたいと思っております。

ぜひとも皆様にはご理解をいただきたいと思っております。以上、よろしくご審議のほどお願いしたいと思います。

５　報告

○活動経過報告【資料「角田市第６次長期総合計画策定経過」】

資料配布のみとし、説明を割愛。このことに関する意見等はなし。

６　議事

角田市長期総合計画審議会条例第５条第１項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

（１）第６次長期総合計画の策定に関する意見への回答（案）について【資料１】

事務局（齋藤企画調整係長）より、【資料１】に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

〔砂金委員〕

この回答（案）はかなり真剣に考えられていると思いながら拝読したが、どのような形で回答するのか。

〔齋藤企画調整係長〕

回答方法については、直接本人宛にメール等で回答する。また、今回の第４回審議会の終了後、審議会の開催内容をホームページ上にアップするので、その際に併せて公表する。

（２）第６次長期総合計画　基本構想の構成案について【資料２・３】

事務局（木村まちづくり政策課長、齋藤企画調整係長）より、【資料２】及び【資料３】に基づき説明を行った。このことに関する意見等は以下のとおり。

〔武智委員〕

基本構想の構成案の項目については、所々に角田市と入っているものの、どこの市町村でも使えるような、オーソドックスな印象を受けた。参考の名取市の基本構想は、定住促進・少子化対策、名取市の魅力の活用、人材の確保・市民所得の向上など、もう少し具体的である。これが角田だというところをもう少し打ち出したほうが良いのではないか。

〔木村まちづくり政策課長〕

これについては、これまでの調査、事業の点検などから今後１０年間で取り組むべき課題であろうというものを中心に抽出しており、中身の書きぶりはこれから検討するものである。書きぶりの中で角田らしさ、角田特有の課題などが表現されてくるが、次回の第５回の審議会ではこの書きぶりも含め皆様にご審議いただく予定である。今回は、あくまでたたき台である。

〔黒須市長〕

事務局から補足として、基本構想の章立てが前回の計画と違い、検証しやすい順番、予算組みと同じ項目となっている点について説明してほしい。

〔木村まちづくり政策課長〕
第５次と第６次の長期総合計画で、特に第４章の構成が大きく変わっている。第５次長期総合計画第３章の「計画の大綱」が、第６次長期総合計画では第４章の「分野別施策の方向性」に変わっているが、この「分野別施策の方向性」の分野設定は、市の予算を構成する分野とおおよそリンクする形になっている。第５次長期総合計画では、予算が様々なテーマに入り組んだ形で構成されており、決算の状況あるいは事業の進捗を見る際に、組み合わせて見る必要があったため、今回はシンプルに「分野別施策の方向性」と予算がリンクする形の構成とし、後々点検しやすい構成にしている。

〔加藤委員〕
「分野別施策の方向性」が予算構成とリンクしているところは理解したが、この分野別施策の順番は、予算の多い順番ということではないか、確認したい。

〔木村まちづくり政策課長〕
予算の多い順番ではない。

〔齋藤(勤)委員〕
予算と構想との関係であるが、基本的には構想が優先すべきという一つの考え方がある。執務上難しい段階になっていると理解すべきなのかもしれないが、基本的には構想が優先し、予算はそれを実現するための財源であって、構想を優先すべきではないか。

〔木村まちづくり政策課長〕
ご指摘のとおりだと思うが、決して構想を軽く見て、予算を重く見ているという話ではなく、全体的に考えて後々の検証しやすさ、これからの計画の立てやすさなども勘案して、予算とリンクした構成での提案だとご理解いただきたい。

〔黒須市長〕
今回、「分野別施策の方向性」と予算の項目をリンクさせるということは我々の覚悟でもある。今までは、長期総合計画を策定しても、実際には毎年の予算、決算の評価等々にはあまり反映してこなかったところもあるが、今後は予算、決算と長期総合計画をリンクさせることで、毎年の予算、決算の中で議会にも示して議論をし、しっかりと総括していく。
市としては大変であるが、１年毎に検証していただくことは必要であり、また市民の皆様にもいろんな形でそれを明確にしていき、議論を市民の中にも巻き起こしてご意見をいただかなければならない。市民の皆様が市政を運営していくという大前提もあり、そういった点でなるべく分かりやすく示していく方法の一つとしてこのような構成としている。

（３）人口の将来展望（人口ビジョン）について【資料４・４－２】
事務局（角田市第６次長期総合計画策定支援業務委託業者（七十七リサーチ＆コンサルティング株式会社））より、【資料４】及び【資料４－２】に基づき説明を行った。
このことに関する意見等は以下のとおり。

〔柳井会長〕
６月に入ると令和２年国勢調査の結果が出てくるが、この長期総合計画における人口ビジョンのデータ更新の考えについて確認したい。国勢調査の速報値が６月から公表になるが、そうすると人口の減り方や基礎的な部分のデータが変わってくる。その後、更新を行うのか。

〔齋藤企画調整係長〕
今回の人口ビジョンの推計については、社人研の推計をベースに推計している。新たな国勢調査の結果を基に、社人研の推計が更新された場合は、人口ビジョンのデータ更新も対応可能ということになるが、この長期総合計画策定期間中に社人研の推計が示されなければ、その部分は反映出来ないことになる。

〔齋藤(勤)委員〕
【資料４】４０ページの図表で、独自推計３と社人研推計の差は 2065 年で約３千人となっているが、１０年後ではどの位の差になっているのか。

〔七十七リサーチ＆コンサルティング株式会社（山下調査研究部長)〕
１０年後の数値はないが、約１０年後の 2035 年であれば、【資料４】３３ページの表に、独自推計３が 24,106 人に対し、社人研推計準拠が 23,282 人とあり、この差は 1,000 人弱である。

（４）まちづくりの基本理念について【資料５】
事務局（木村まちづくり政策課長）より、【資料５】に基づき説明を行った。このことに係る意見等はなし。

（５）本市の都市像について【資料６・７】
事務局（木村まちづくり政策課長）より、【資料６】及び【資料７】に基づき説明を行った。このことに関しては、説明内容やこれまでの各種調査等の結果を踏まえて、各委員の考える本市の「都市像」について、一人ずつ発言があった。その発言内容等は以下のとおり。

〔柳井会長〕
これまでの調査結果なども踏まえて、１０年後に角田市があるべき姿、「都市像」について、委員の皆様の考えをお聞きします。直接的な「都市像」でなくても、イメージやキーワードでも結構です。名簿の下から順番に、渡邊委員からお願いします。

〔渡邊委員〕
基本理念に「市民が主役のまちづくり」、「地域資源を活かしたまちづくり」とある。スポーツ協会では様々な活動を行っているが、役員、指導者の数が非常に少なくなっており、年配の方がいつまでも世話役をしているという状態である。若者や指導できる方に声を掛けても、なかなか定着しないという難しさがあるが、解決するには人づくりが非常に大切でないかと思う。
もう一つ、角田市は昼間人口が多いがなかなか住んでもらえないことに関しても、市内に住んでもらうキャンペーンを行ってはどうか。押しつけは出来ないが、キャンペー

ンを勧めるとか、市民が主役という考え方をしていかないと、どんどん大変な状況になってくる。

〔毛利委員〕
　人口が減少することが分かっている中で、人口を増やすことばかり言っても現実的ではないので、人口が減った時にどういう角田市にしていくかという話し合いがないと気持ちが下がってくる。人口が多いから良い、少ないから悪いという考えではなく、もっと角田市をアピールしていかないと人も集まらない。角田にはこんなものがあるという具体的なものをもっと市民から吸い上げる、市長の言う「市民力」を具体化するにはどうしたら良いか考える必要がある。

〔武智委員〕
　【資料７】で角田高校のことに触れられている。私は１０年ほど前、市内の誘致企業を含め１０社ほどに取材をしたが、その中で企業の方から、社員に一から挨拶やノウハウ、スキルを教えるのが非常に大変だという話があり、進学一本ではなく、コンピューターや情報処理に強いなど企業が求める人材育成も必要ではないかと、県を通じて角田高校に提言したことがある。今の状態だと、高校、大学等で市外に出て行ってそのまま就職すると戻ってこないということが考えられるので、その辺りは県に相談してはどうか。
　もう一つは、５つの“め”の認知度が５０％に至っていないことである。確かに５つの“め”の認知度が上がれば話題になり、角田市という名前も出てくる点は良いが、現状で５つの“め”が経済的にどれだけ寄与しているのか。畜産など５つの“め”以外でも非常に頑張っているところもあるが、今一つ名前が出てこないので、もう少しアピールや後押し、力を入れていくことが必要ではないか。

〔佐山教育長〕
　今の小中学校の教育は、高校に非常に大きく左右されているところがある。高校との連携というところで、小中学生がこういう高校生になりたいという具体的な姿、イメージが持てれば、学力の問題や、志教育、キャリア教育などは、比較的一つの流れとなって進んでいくのではないかと考えている。県との色々な調整もあるが、それを具体化していくのは教育委員会の責任でもあり、考えていかなければならない。

〔小湊産業建設部長〕
　５つの“め”については、再度色々な場面で、あきられる位に打ち出して浸透させていきたいと考えている。また、畜産については、角田産黒毛和牛は県内でも有数の産地であるものの、地元での流通が少ないことから認知度が低いと考えている。昨年、道の駅かくだ、あぐりっとかくだで特別販売を行っており、多くの市民に知られ始めている状況である。このような取組みを今後も続けていくことで、和牛生産者の皆様により良い肉牛肥育をしていただいて、角田産のキャッチフレーズを付けて販売が出来るようになるよう、農林振興課、商工観光課、それから道の駅などと連携して普及活動を展開していきたい。

〔高橋委員〕
　私は社会福祉協議会の役員の立場にもある。今、社会福祉協議会は、コロナで職を失

った方、あるいは収入が極端に少なくなった方に向けた小口資金融資の窓口になっている。２か月位前のデータでは、融資を受けた方は、１１０人で計５千万円位だったが、最近では１７０人位で計７千万円位となっている。融資を受けたほとんどの方が、窓口の職員に訴えていることは、働きたくても働く所が無いということである。このような方が多く、冒頭で市長からあった「市民力」を発揮出来るような、そういう場を作れれば意外と大きな力になるのではないかと思う。

〔高野委員〕
　市民の中でも角田市のことを良く言う話を聞くことが最近は無いが、角田市に愛着を持っていたり、誇りを持っていたりする人は沢山いると思う。財政的に今後どんどん大変になっていくというようなことを市民一人ひとりがもっと真剣に考え、角田市への愛着だったり、誇りだったりを市内に働きに来ている人にも宣伝して、角田市に住みたいと思ってもらえるような、そういう市になったら良いと思う。

〔齋藤(勤)委員〕
　地元民の誇りとか愛着とか、そういうものが角田市民は欠けているように感じる。
　また、高齢者が何十年後も楽しく住める地域であってほしい。
　そういったことから、「都市像」のキーワードとしては、「心安らぐ」などが良いのではないか。また、角田市を表すものとしては「田園都市」は分かりやすく表現できるキーワードである。そのほか「郷土愛」、「安らげる」、「人材豊かな」といったキーワードも含めた、これからの角田市であってほしいと思う。
　また、市内の各種団体の活動を振り返ってみると、男性中心の団体が多い印象があるが、実際に活動するのは女性という場合も多いように思う。そういう意味で、今まで以上に女性が活躍できる場が必要ではないかと思う。

〔日下委員〕
　防災の面では、一昨年の台風の影響もあり、角田市でも防災計画の見直し、それから各自治体でも区の防災対策が進んでいると伺っている。月並みではあるが「安全・安心なまちづくり」というキーワードが良いと思う。

〔加藤委員〕
　【資料６】で「今後１０年間で実現可能と思われる都市像」とあるが、１０年というとなかなか短いスパンだと感じる。人口関連のデータの説明の中であった、昼間人口が多いという「強み」を１０年間で活かしていかなければならない。我々商工会としても、色々な消費に結びつくという意味で大変貴重な昼間人口だと思っている。
　そういったところで、１０年間を目安としてできる可能性があるのは企業誘致ではないか。そのために、市としてはハード、ソフトの両面で立地しやすい条件の整備に力を注いでいただきたい。

〔小野(陽)委員〕
　街中でも空き家が多く、夜になると真っ暗になる。人口を増やさないとどうにもならないとは思うが、人口を増やすと言っても難しい。交通の便が悪いことなどを理由に若者が帰ってこないという話もあるため、そういうところから改善すると少しは角田市に住もうという人も出てくるのではないかと思う。

〔小野(孝)委員〕

交流都市を目指しているので、Ｋスポ周辺にもっと子ども連れで交流できるような場所やサイクリングなどができるよう整備して、角田市は施設が充実しているから子育てしやすいといった発信ができるように、子ども達のための施設を充実させれば、若い人が来てくれるのではないかと思う。予算的に難しいかもしれないが、できるところからでも力を入れてほしい。

〔遠藤(清)委員〕

地域資源を活かしたまちづくりということで、身近なところで言えば西根地区には、高蔵寺、手代木沼、あぐりっとかくだ、そば屋などがあってすばらしい環境であり、高蔵寺などには他県からも見学に来ている。ボランティアでそういった方たちにおもてなしをしているが、阿弥陀堂がいつも閉まっていて見学できないといった話を聞く。もっと来た人が自然に見学できるような環境になれば、本当に満足してもらえるのではないかと思う。

〔砂金委員〕

「市民力」を高めるための方策として、市としての取組み以外に、自治センターを中心とした地区としての取組み、そしてそれを構成している区民の取組みがある。それにはその取組みの中心となる自治センターの活性化が必要であると考える。地区民の拠り所としての自治センターの活性化をもっと強化してもらいたい。

「都市像」については、ここ２、３年は台風、コロナなど非常に災害が多く、意気消沈しているような状況を鑑みると、何かワクワクするような雰囲気づくりが必要ではないかと思いキャッチフレーズを考えたが、「田園都市」という基盤はずっと繋いでいってほしいという意味も込めて、「華咲く田園都市」や「華つくるまち田園都市」はどうかと考えた。もっと考えてみたいと思う。

〔木村まちづくり政策課長〕

自治センターを地域づくりの核にしていく考え方、方向性は市としても持っている。ただ、将来的にはそのようにしていきたいが、教育委員会から市長部局に所管が変わっても、依然としていわゆる教育の方の公民館としての位置づけが変わっていない。今後はまちづくり、地域づくりに軸足を置いた機関にしていく方向で進めていきたい。

〔堀米委員〕

まちづくりを考えたときに、何をどうやって変えていくのかというのはタイミングが非常に難しいが、この長期総合計画は、そういった意味で非常に重要なポイントであり、今後のまちづくりの方向性を示す大きなチャンスだと思う。前例踏襲のやり方で文言だけを変えて作っても市民には届かない。正直、全くワクワクしないし、面白くない。

この地域の未来をどうやってつくっていくのか、そういった方向性を示唆するような長期総合計画にしていくべきではないかと思う。ここで大事なポイントは、当事者性である。立派な先生が作った、コンサルティング会社が考えてくれたということでは、市民には届かない。自分達が一生懸命考えたということをアピールしていく必要がある。

この半年間の中で私が一番良かったと思うのは、ＲＥＳＡＳを基に若手職員が考え

た中間発表であり、本当に当事者としての真剣みがあった。そういうことをアピールしていってほしい。

他のまちと比較するのではなく、もっと大事に当事者としてこの地域をつくっていこうということが必要だと思う。その上で、この長期総合計画はぜひ市民に投げかける計画になってほしいと思う。役所の棚の上に飾っておいて、１年に１回取り出して職員だけが見るような計画では、せっかく一生懸命お金を掛けて、皆で労力掛けてつくった意味が無いと思う。市民に向けたメッセージにしてほしい。

そこで、コンサルの方には、アートディレクターを雇っていただきたい。要するに市民が見て楽しく、こんな将来像が自分たちでつくれるんだと思えるようなアーティスティック、芸術的な長期総合計画にしてはどうか。まちづくりのバイブルのような、そういう長期総合計画にしてはどうか。それ位市民にアピールがあっても良いと思うので、少ない予算だとは思うが、優秀なアーティストにお願いして、見て楽しい長期総合計画にしてもらいたい。

〔黒須市長〕

当事者性というところでは、計画策定に当たって市民の皆様にも参加して考えていただけるような仕組みがある長期総合計画をつくっていければと思っている。おっしゃるとおり棚の上に置いてあって埃をかぶるのでは意味がないので、そういった意味でアーティスティックな長期総合計画という話は非常に面白いと思う。魅力のある、こんなまちづくりなら楽しいよねと話題にのぼるような、あるいは時々見ていただけるようなものでないといけない。また、何かしたいときには、長期総合計画を見て使えるといった利用価値のある、そういったものにしていければと思う。

〔柳井会長〕

今回の角田市の長期総合計画は、今までにない手法が組み込まれている。通常はフォアキャストという考え方で、現状でこういう課題があるから解決していくというのがこれまでの地域政策のつくり方であった。今回の取組みは、バックキャストという考え方で、ここ５年位の間に地域政策の主流になってきている手法である。この手法は、将来目標や理想を掲げて、そこに向けてどのように線で結んでいくかというものである。

この１０年間に震災や大雨があったが、これまでだとそういった場合にほとんど役に立たなくなってしまう。一方、バックキャストの方法で将来像や未来図をつくっていくと、そういったことが起こっても、やり方を再編成していく、組み替えていくことができる非常に柔軟性があると言われている。角田市のやり方にはそういう考え方が組み込まれているので、零点ということではないと考えている。

あとはワクワク感をどのように出していくか。ただし、ワクワク感は市民が加えていくものだと思う。市民が主役となるサスティナブルな仕組みを計画に組み込んでいく。そして、私やコンサルがそれを裏方で応援していく、そういう役割分担が地域政策を策定していくうえでは大事ではないかと思う。

〔一柳委員〕

都市像、将来像のキーワードとして、「調和」という言葉はどうか。「調和」という言葉には、「バランス」や「円満」という意味が含められている。一見「バランス」というとあまり個性が無いというイメージで捉えられがちだが、今の世の中は凄く変化が速いので、「バランス」の取れている、「調和」があるということが実は隠れた強みであ

って、角田市にはそういった「バランス」、「調和」の取れたまちというイメージがあっても良いのではないかと思う。産業、農業の「バランス」など、そういったところに実は角田市の強みがあると思っており、防災・減災の観点から人と自然の「調和」や、財政支出の「バランス」、「調和」ということにも使えるのではないか。

また、「調和」を取るためにこうした議論をしているというイメージも持っている。その時々で「バランス」を取ることは凄く難しく、そういう意味も含め、市民の方々に「バランス」や「調和」というイメージを持っていただくということが良いのではないかと考える。

〔戸田委員〕

私は仕事柄、他市町村の方とよく話をするが、角田市によくラーメンを食べに来るとか、運動公園に行って子ども達を遊ばせるという話を聞くと非常にうれしくなる。福島県の浜通りから角田市に移住してきた方からは「角田は凄く良い所で、空港にも近い、福島にも近い、東京にもそんなに時間をかけずに行ける」という話もあった。私達はどうしても仙台市を中心にして、仙台市から見ると角田市は不便と考えてしまうが、そういう視点もあると思う。

ただ、角田市から名取市の高台に移住した方に名取市に移った理由を聞くと、「台風１９号の水害で家がやられたので絶対に水があがらない所に移ってきました」「角田はどこも水があがる」という話があった。そうした考えで角田市から移住する人もいるのかと非常にショックを受けた。資料の重点政策に安全・安心があるが、少なくとも水害などで角田市を離れる人がいないように、逆に角田市は水害にも強く、万が一水害にあったとしてもその後の救済がしっかりしているので角田市は良いと言われるまちになってほしいと思う。

〔菅原委員〕

【資料５】の中で、「市民」という言葉にカッコ書きで「ここでは、企業や通勤・通学者など多様な主体を含む広義の市民を指します。」とあり、住んでいる方だけでなく、角田市に来る方も「市民」であると解釈した。

そうした中で、例えば、阿武隈川の土手沿いに５つの“め”の一つである梅の木を植えて、「梅まつり」などをやってはどうか。関係省庁と調整する必要があり難しいのかもしれないが、市民の方に協力していただき、全国や県内の方々にも声を掛けて一本一本植えていくという形で盛り上げていき、実がなったら「梅干しまつり」のような形でリピーターを増やしていくのはどうかと考えた。

それから、事業者等アンケートにも書いたが、例えば規模の大きい会社であれば、内閣府の制度を使って企業内保育園の補助が出ることを紹介して保育園をつくっていただくことによって、市民の方も入ることができ、市で保育園を運営する必要が無くなる。そういった施策があると企業誘致の際に保育園もつくり易く、市民の方も利用しやすいのではないか。

最後に一点、基本構想の構成案について、目次が固いという印象があり、目次を見た瞬間にもういいやという風に思ってしまうのではないか。キャッチーな言葉とは言わないが、もう少し柔らかいと読み易くなるのではないかと思う。

〔齋藤(善)委員〕

都市像を考えた時に、単なるキャッチフレーズではないだろうと思う。様々な施策や

優先順位を考える上で、その方向性と指針となるものが「都市像」、あるいはその「都市像」を表した言葉であると考えると、先程説明のあった人口ビジョンなどの様々な情報、現状や課題といったものを総合すると、やはり「人」という言葉が一つ出てくる。それから、角田市の市民憲章にもあるように自然の恵みというのもあるので、やはり「人」や「自然」、あるいはそこで活躍する人たち、ハード、ソフトを含めて「地域」、この３つの言葉は必要だろうと思う。

成り行きでいくと５０年後には人口が３分の１位まで減ってしまうという推計もあり、人口が減らないようにするにはどうするかと考えたときに、やはり角田に行ってみたいという気持ちが必要ではないかと思う。角田に行けば何か美味しいものが食べられるとか、あるいは角田そのものに魅力を感じて人が集まるような、そんなまちになってくれたらと考えるので、「魅力」という言葉も大きなキーワードではないかと思う。例えば、「魅力ある角田」など。「人」、「自然」、「地域」、「魅力」といった言葉が織り込まれていると、色々な施策を検討する上で、そういった言葉に照らし合わせながら判断していけるという観点で役に立つのではないかと考えた。

〔遠藤(尚)委員〕

今後の人口減少は避けられないという状況は理解しており、その中で今後求められていくのは「地域の活動」とその中にある「人」であると考える。第５次長期総合計画の都市像で「人」と「地域」という言葉があるが、この「人」と「地域」というこのキーワードはやはり重要ではないかと思う。

ただ、その中でも「弱み」を「強み」に変えてくことは非常に労力が必要な作業となるので、それぞれの地域にある「強み」の部分を更に引き上げていき、それぞれの地域ごとに「強み」を活かして共に支え合う、一言で言うと「共助」のような精神の中で角田市をつくり上げていくことが求められると感じている。

また、これからデジタル化が進んでいく中で、人と人の繋がりが希薄化していく可能性もあるが、最終的には「地域」、「人」、それぞれ必ず繋がりというものが出てくると思う。求められる「都市像」においても、行政として様々な分野、仕事もあるが、その分野の中でも必ず繋がりが必要となることを考えたときに、「繋がり」というキーワードが一つあっても良いのではないかと感じた。

７　その他

事務局（木村まちづくり政策課長）より、最終的な計画の冊子の表紙及び裏表紙のデザインについて、角田高校の生徒に依頼する方向で学校と交渉中であることを報告した。

８　閉会

第４回角田市長期総合計画審議会委員出席者名簿

令和３年４月２８日

No.	役　職	氏　名	所　属　等	構成区分	備　考
1	会　長	柳 井　雅 也	東北学院大学　教授	知識経験者	
2	副会長	安藤　由紀子	角田市医師会	知識経験者	途中退席
3	委　員	遠藤　恵美子	角田光の子保育園　園長	知識経験者	欠席
4	委　員	遠 藤　摂 子	社会福祉法人　あけの星会　理事長	知識経験者	欠席
5	委　員	遠 藤　尚 志	大河原地方振興事務所　地方振興部長	知識経験者	
6	委　員	上 條　徹	アイリスオーヤマ㈱　マネージャー	知識経験者	欠席
7	委　員	菊地　恵美子	みやぎ仙南農業協同組合　理事	知識経験者	欠席
8	委　員	齋 藤　善 宏	日立Astemo㈱　人財統括本部 HRシェアードサービス部　宮城総務課　課長	知識経験者	
9	委　員	菅 原　満	国立研究開発法人　宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター　角田管理課　課長	知識経験者	
10	委　員	戸 田　宏 士	戸田宏士司法書士事務所	知識経験者	
11	委　員	一 柳　知 秋	七十七銀行　角田支店　支店長	知識経験者	
12	委　員	堀 米　荘 一	合同会社あぐりっとかくだ　代表社員	知識経験者	
13	委　員	松 本　篤 志	連合宮城仙南地域協議会　角田地区会議　議長	知識経験者	欠席
14	委　員	砂 金　甚 一	角田市社会教育委員	公共的団体の役員	
15	委　員	遠 藤　清 子	角田市民生委員児童委員協議会　西根地区会長	公共的団体の役員	
16	委　員	小 野　孝 子	角田市統計調査員協議会　会計	公共的団体の役員	
17	委　員	小 野　陽 子	角田市各種女性団体連絡協議会　会長	公共的団体の役員	
18	委　員	加 藤　泰 彦	角田市商工会　会長	公共的団体の役員	
19	委　員	日 下　三 郎	角田消防署　署長	公共的団体の役員	
20	委　員	齋 藤　勤	角田市環境衛生組合連合会　会長	公共的団体の役員	
21	委　員	島 津　恵 美	角田市民生委員児童委員協議会　主任児童委員部長	公共的団体の役員	欠席
22	委　員	高 野　絹 子	角田市商工会　女性部　副部長	公共的団体の役員	
23	委　員	高 橋　輝 昭	角田市行政区長連絡協議会　会長	公共的団体の役員	
24	委　員	武 智　照 道	角田市行政経営推進委員会　委員長	公共的団体の役員	
25	委　員	毒 島　弘 美	角田市教育委員会　委員	公共的団体の役員	欠席
26	委　員	毛 利　良 子	角田市芸術文化振興会　会長	公共的団体の役員	
27	委　員	渡 邊　峰 雄	角田市スポーツ協会　理事長	公共的団体の役員	

第４回角田市長期総合計画審議会事務局出席者名簿

令和３年４月２８日

策　定　本　部

No.	役　職	職	氏　名	備考
1	本部長	市長	黒須　貫	
2	副本部長	副市長	牛澤　順	
3	副本部長	教育長	佐山　富夫	
4	委員	総務部長	中村　方彦	
5	委員	市民福祉部長	髙橋　正明	
6	委員	産業建設部長	小湊　洋司	
7	委員	教育次長	玉渕　和紀	
8	委員	財政課長	大槻　信一	

事　務　局

No.	職	氏　名	備考
1	まちづくり政策課　課長	木村　信幸	
2	まちづくり政策課　課長補佐	齋藤　学	
3	まちづくり政策課　企画調整係　係長	齋藤　謙	
4	まちづくり政策課　企画調整係　主査	渡辺　寛大	
5	まちづくり政策課　企画調整係　主査	安達　宗平	
6	まちづくり政策課　企画調整係　主事	佐々木　あづさ	